

【私たちから見える姿】

私たちから見えるのは子どもたちの身体の動きと表情です。子どもたちの心の中はなかなか見えにくいですが、私たちは見えること、表情から伝わってくることから日常の子どもたちへの声かけをしていることがほとんどです。授業中に集中が続かなくてとなりの子に話しかけてしまったり何か授業に関係のないものを取り出して遊び始めたりしてしまうような子がいると、それは声かけの対象となります。しかし、同じような状況になった子が、まわりに迷惑をかけるようなことなく、ごく普通の表情をして実は授業に全く気持ちが向かっていないとしたら、その子への声かけはできないままその授業が終わってしまうかもしれません。気付いたことへの指導の裏側には気付くことができないことには何もできないという実態があります。子どもたちはお互いをよく見ているようで、先生よりも友だちの様子がよく分かるのかもしれませんが、どうして自分だけ先生に注意されるのだろう、どうしてあの人は注意をされないのだろう。というような気持ちが生まれてくることがあるようです。そういうところから、子どもたちの中には不公平感が育ってしまうのかもしれませんが、声をかけてもらえること、注意してもらえることがありがたいことだと思う子はまずいません。先生に気付かないまま時間を費やしてしまう子はある意味気の毒です。ここで、私たちが気をつけなければならないことは、改善してほしいことが分かる子、よく声かけをする子だけを問題がある子どもと考えてはいけないということです。これは一例でしかありません。私たちが一緒に生活している子どもたちは日々様々な経験をし、いろいろな思いをめぐらせています。私たちに伝わりやすいこと、見えやすいこと、分かりやすいことはしっかりと受け止めながら、伝わりにくいこと、見えにくいことも、こちら側からの何らかの働きかけによって少しでも分かっているようにしていかなければならないでしょう。

【マラソン大会のあと】

マラソン大会がこどもの国で行われるようになって16年目となります。以前は、レストランも大会終了後に桐光学園小学校の子どもと保護者が長時間使用してしまい一般の方たちの迷惑になるということで、今のようには皆さんにはできるだけ利用を控えていただくようお願いをすることになりました。また、大会が終わってからそのまま遊んでいいかどうかについても、仮入園券の使い方などでこどもの国の方との調整の結果、そのまま閉園時刻まで遊ぶことに問題はないということになりました。

しかし、私がいつも心配になるのは、午後の子どもたちの過ごし方であり、それを見守る保護者の皆さんの子どもたちへの関わり方なのです。今回も、私たちが片付けをしているときに、すでにサッカーボールやバットとボールを持った子どもたちが中央広場に下りてきて遊び始めました。「ここでこうやってボールを蹴るのはいいのかな？ロープが張ってある場所なのだからここに入っていいのかな？」と問いかけました。そこで子どもたちから返ってきた言葉は「いいんだよ」でした。しかし、すぐあとに他の子から「いけないんじゃないの？」という声も聞こえてきました。結局ボールを蹴っていい場所かどうかについての結論は出たのですが、そこで感じたのは、子どもたちの判断の基準になるのは、「自分がしたいことはしていい」というものなのだろうということでした。遊んでいるときに誰かに声をかけられて、今自分がしていることがいいことなのかそうでないのかを考える機会を持つことがなければそれは全ていいことになってしまうのかもしれませんが。案の定、午後の過ごし方について何件か問題があったことが聞こえてきました。きっとそれは実際にあったことのほんの一部でしょう。保護者が一緒だから大丈夫と思いたい、保護者がそばにいても自分で考えて遊ぶことができると思いたい、しかし現実はどうでないことがとても残念で、心が痛みました。まさか、「何時にどこで待ち合わせね」なんていう方はいなかったと思いますが、もしもそうであったなら考え方を改めていただかなければなりません。

学校においても、判断力、規範意識の低さを感じさせる子どもたちの言動が問題になっています。これまでの学校生活の積み重ねがそのような子どもにしてしまったことへの責任を感じる毎日です。

【非常時への備え】

災害に対する備えをしっかりすることは学校でも家庭でも大切です。最も心配なのは、登下校中に大きな地震にあうことです。最近少し危機意識が薄れてきているようにも思いますので改めて家庭でも話題にしたいと思います。

また、近頃は事故などによる交通機関の乱れが頻繁にあります。先日も、小田急線で事故があったときは、1年生はすでに栗平駅から電車に乗ったあと、2年生は駅に到着する前、3年生以上は学校にいるという状況でした。心配なのは1年生のことでした。新百合ヶ丘に車で教員を向かわせましたが電車内の子どもたちは一人ではなかったものの、きっと不安な時間だったことと思います。トイレに行きたい子はいないだろうか、水筒の飲物はまだあるだろうか。そんなことを思いながら運転再開を待っていました。このように日常生活の中にも、何かあったときどうしたらよいかを話し合っておくべきことがあります。